～～～

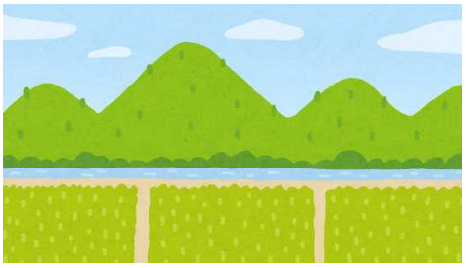
ふるさと選び

録音製作係　音声解説担当　宇田（うだ）　佑香（ゆうか）

「兎追いし かの山～
小鮒釣りし かの川～」

ふるさとと聞くと、こちらの歌詞が穏やかなメロディーに乗って、頭の中に心地良く流れますが、私は工業地帯で育ったため、あまりピンときません。幼い頃の私にとって、山や川はふるさとというより、遠出をするときの行き先という認識でした。

「田舎に帰る」「都会に出る」という言い回し、よく耳にしますよね。私の場合はその逆で、田舎に出て都会に帰っていました。今思えば、両親があえて自然豊かな場所を選んで連れて行ってくれたのかもしれません。



こんな風に育った影響もあってか、私の心の奥には「山や川に郷愁の念を抱きたい」というヘンテコな願望が昔から備わっています。近年ふるさと納税ブームということもあり、ふるさとを選ぶ時代が来たのだと勝手ながら感じているので、この機会に、私のふるさとにしたい山と川を選んでみることにしました。

散々悩んだ末に選ばれたのは、大阪の北部、箕面市の「箕面山」と「箕面川（上流域）」です。なぜかというと、私が今まで訪れた山や川のなかで、「ふるさと」の歌詞のイメージにいちばん近いと思ったからです。実際にウサギやフナが生息しているかどうかはわかりませんが、山道を歩いているとサルに出くわしたり、川のせせらぎを眺めているとお魚がいそうだな…と思ったり、生命の息づかいを感じました。（狩猟や釣りは禁止されているので、みなさま訪れる際には追いかけたり釣ったりはせず、息づかいを感じるのみにとどめてください。）

私が訪れたのは秋の終わりごろだったので、紅葉がとても綺麗でした。箕面山の紅葉は有名で、シーズンの時期には多くの観光客でにぎわう人気の名所です。彩られた木々に囲まれながら山道を歩いていると、滝の打つ音がだんだん聴こえてきます。「みのおのたき（正式名称：箕面滝）」です。落差は約33メートルもあるそうで、水しぶきがかなり飛んできます。目や耳に限らず、全身で体感する「みのおのたき」の迫力に、幼い私は圧倒されました。今でも鮮明に覚えています。

ふと、「ふるさと」の歌詞を調べてみたら、三番の後半の歌詞に「山はあおき故郷」とありました。ふるさとの山は青いのですね…。なんとも的外れなふるさと選びとなってしまいました。

木村（きむら） 謹治（きんじ）

対面リーディングの実際 48

― 固有名詞の読み方 ―

漢字の読みの内、固有名詞の読みほど難しいものはありません。日本は「にっぽん」なのか「にほん」なのか、こんな古典的な迷いもあります。例えば日本航空は定款上「にっぽんこうくう」ですが、コマーシャルでは「にほんこうくう」と言っていますね。どちらが本当？と思ってしまいます。が、どちらも正解です。但し、旅行誌などを読む場合は「にほん」、投資関係の図書ならば「にっぽん」かもしれませんね。

この頃はキラキラネームが増えていますが、こちらも読むのが難しいです。例えば次の名前は読めますか。いずれもアニメのキャラクターに関係します。

①光宙　②黄熊　③龍飛伊　④姫星・希星　⑤今鹿　⑥幸生大　⑦土恵大　⑧琥南・新一　⑨亜斗夢　⑩弥有二　⑪泡姫　⑫癒　⑬厳惰夢　⑭月　⑮緑夢

いかがですか、読めますか。名前は年を取りませんが、人は年を取ります。大人になって、こんな名前で呼ばれると想像するだけではずかしく思うのは僕だけでしょうか。

では、答えです。①ぴかちゅう（ポケモン）　②ぷう（クマのプーさん）　③るふぃ（ワンピース）　④きてぃ（ハローキティ）　⑤なうしか（風の谷のナウシカ）　⑥しいた（ラピュタの城）　⑦じぇだい（スターウォーズ）　⑧こなん（名探偵コナン）　⑨あとむ（鉄腕アトム）　⑩みゅうーつー（ポケモン）　⑪ありえる（リトル・マーメイド）　⑫ほいみ（ドラクエ）　⑬がんだむ（機動戦士ガンダム）　⑭らいと（デスノート）　⑮グリム（グリム童話）だそうです。

図書に出てくると困ったものです。なかなか読めません。利用者に断って、読めるように読むか、漢字を説明するかしかないでしょうね。録音の場合は時間的に余裕があるでしょうが、対面リーディングでは無理です。

人名の読みではないですが、名称に関する話題をもう一つ。

NHK広報局が「ツイッター(Twitter)」で、東京海洋大学客員准教授のさかなクンの話題を取り上げたところ、読者から「さかなクンさん」と呼ぶべきで「敬称を付けないのは失礼だ」との苦情が寄せられました。同広報局の「ツイッター」担当者は、ツイッターに謝罪文を掲載したうえで、苦情を寄せた人に直接に謝るという事態となったそうです。

さかなクンは水産庁の水産政策審議会特別委員や、数々の水族館、博物館の研究員を歴任、2010年12月15日には70年前に絶滅したとされた淡水魚「クニマス」の発見に貢献したとしてニュースなどに大きく取り上げられました。お茶の間では魚類に詳しいタレントとして知られ、「ギョギョッ！」などという掛け声とともに人気者になっています。

今回の「さかなクン」騒動は、NHK広報局が運営するツイッターで広報局員が「さかなクン」と書いたのが発端でした。これに対し、「さんをつけろよ、デコ助野郎」「呼び捨てだなんてさっすがー！マジパネェッス！」「さかなクンさん、とお呼びしましょう」「さかなクンさんは芸人じゃねーし」などと苦情のリツィートが殺到したとの事です。

よく分からないのは、マナーの事で批判し

ているようですが、その言葉の荒れに驚きます。

広報局員は事態が飲み込めていないようで、「さかなクンさん？」などと「ツイッター」上で何度も聞き返し、「さかなクン」本人が「さん」を付けることを望むなら、そうしなければならないのかもしれない、とした後で、「ツイッター」に謝罪文を掲載。

「先ほどのツイートで、さかなクンさんを、さかなクンとお呼びしてしまいました。たいへんな失礼をいたしました。申しわけありません。お詫びして訂正いたします。何卒ご容赦ください」

そして、苦情を寄せた人達１人１人に謝った。その数は20を超えたそうです。

やがて「誰もが失敗するものです次は失敗しないように気をつけてください」「これからはさかなクンさんを二度と呼び捨てしちゃいけないヨ！」といったリツィートが寄せられるようになりました。さらに、イタズラで責めているだけなので気にしないように、といったツイートが寄せられました。

実際には「さかなクン」には敬称を付け「さかなクンさん」とするのが正当なのだろうか。さかなクンが所属する事務所・アナン・インターナショナルに問い合わせてみたところ、まず、「さかなクン」は、この全体が名前であるため、「さかなクンさん」などと敬称を付けて呼ばれることもあり、これはこれで正当なのだという。ただし事務所は「私共としては『さん』が付いていないから敬称を略されたなどとは考えておりませんし、さかなクン自身も『さん』を付けなくてもいいと言っていますし、特に気にしてはおりません」ということでした。

取材や打ち合わせの時に、本人に「『さかなクンさん』って『さん』を付けたほうがいいんですか」って聞くと、そのたびに「さんはつけないでください」って言われます。

えっ、インターネット上では、「さん」を付けないで「さかなクン」って書き込むと「さんをつけろよデコ助野郎！」って怒られちゃうんですか！？　ギョギョ！　全然知らなかったです。皆さま、お優しいので「さんを付けましょうか？」と聞いてくださるのですね。

ワタクシ、高校生の頃から友達に「さかなクン」って呼ばれているんです♪　昔から呼んでもらっていたこの愛称を今でも変わらず呼んでいただけることが最高に嬉しいです。小さいお子様にも「さかなクン、さかなクン」って親しみを持って呼んでもらえますし、ギョ年配の方は「さかなちゃん」って親しみを込めて呼んでくださることもあります。これからも、お魚大好き「さかなクン」って呼んでいただけましたら、すギョく嬉しいでギョざいます！！

騒ぎは何だったんでしょうね。

欧米人の固有名詞に関しては現地読みの発音に近づけるように表記される傾向があります。が、漢字で表記する中国や韓国の地名や人名は未だに日本語読みをされる事が多いです。

韓国はハングル文字で表記され漢字は使われているの？との疑問が湧きます。実は韓国人の大多数（99.9％以上）は、名前に「ハングル」と「漢字」の両方で表記され、両方とも住民登録証（日本でいうマイナンバーカード）に登録されます。　名前に漢字がない韓国人は最近は増えていますがごくわずか、姓には漢字も使用しているのです。

その理由の１つとして表音文字であるハングルだけで人名を表記しても区別しにくという事が挙げられます。

例えば、私の姓は「きむら」ですが、ワープロで漢字変換すると、あるわあるわ、木村・木邑・紀村・木邨・帰村・来村…。候補が溢れるほど。表音文字のかなだけで表記すると表意文字の多彩な差が消えて「きむら」となってしまいます。

中国の地名・人名の表記と読みについてNHKでは、1953（昭和28）年10月から現在にいたるまで、中国の地名・人名の表記と読みは次のような原則で運用しています。

中国の地名・人名は、原則として、漢字で表記し、日本語読みとする。ただし、ハルビ

ンなどカタカナ表記が定着しているものはカタカナ表記とし、上海（シャンハイ）、青島（チンタオ）など原音読みが定着しているものは、原音読みとする。

また、漢字は、中国で使われている「簡体字」ではなく、日本で通用している漢字を使うことにしている。たとえば、「しんよう」は、中国では簡体字で「沈阳」と書くが、NHKの放送では「瀋陽」と書く。また、常用漢字表にある漢字はその字体に合わせ、表外字は康熙字典体（こうきじてんたい）を用いる。たとえば、「黒龍江省/黒竜江省」は、「竜」が常用漢字表の字体であるため、「黒竜江省」とする。これらの原則は、共同通信社、時事通信社などの通信社や毎日新聞、読売新聞などでも同様に使われている（朝日新聞のみ漢字表記で原音読みをカタカナルビで示す）。また、少数民族が住む地域の地名や中国語以外の原語を語源とする地名の場合、原音読みをし、カタカナ表記とする（例:ハルビン、ウルムチ、チチハルなど）。

（『中国の地名・人名についての再確認』放送用語委員会）より

何となく表記し、何となく発音しているのではなく法則はあったのです。しかし、なぜ今の流れである現地読みにしないのでしょうか。実は「相互主義」がと言うのが原因のようです。先ほどの放送用語委員会の説明を見てみましょう。

中国の地名・人名は「相互主義」の考え方から「漢字表記・日本字音読み」を原則としている。「相互主義」とは、同じ漢字を使用する国が、それぞれの国の読みに合わせて相手の国の地名・人名を表記したり読んだりすることである。つまり、日本で、中国の地名・人名を日本の漢字で表記し、日本での読みをあてるのと同様に、日本の地名や人名も中国では、中国の漢字で表記し、中国読みをするのである。国家間の交渉でもこうした運用になっている。1972（昭和47）年に日本と中国の国交が正常化した後も、この慣用が続いている。当面、国としても現状を変更する意向はないようで、NHKも同様です。

問題になったのは北京オリンピックの放送です。世界的に活躍している中国人選手をどのように表記するかです。たとえば、アメリカのプロバスケットボールリーグで活躍している「姚明（ようめい）」選手は、バスケットボール界では「ヤオ・ミン」と原音読みで知られています。

しかし、原則に沿って漢字表記・日本字音読みで通すことになりました。ただ、同じ中国人であっても、外国に帰化した選手は、漢字表記・日本字音読みではなく、原音読み・カタカナ表記としているそうです。ややこしいですね。

表意文字である漢字には大切な意味が込められているはずです。間違えられるといい気持ちはしないのではないでしょうか。中国人の場合はなおさら文字を大切にしており、漢字に意味をこめています。漢字は違うが読みは同じものがある。「カ」と「麗」はいずれもカタカナで書くと「リー」となります。これを原音どおりだからとカタカナで書いてしまうと、その人物が力強い人なのか、またはうるわしい人なのかがわからなくなります。

また、中国語にも方言があり、原音と言ってもいくつもの読みがあり、そのほか、四声（漢字音における中国語固有のアクセント。伝統的には、平声、上声、去声、入声の４種をいう。詳しく知りたい人は調べてね）もあります。こうしたことから、原音読み・カタカナ表記にしても、中国人にも、日本人にも違和感が生じてしまう事があるのです。

『ネイホウ、私の生まれはヒョーンゴーンです』　別の言い方では『ニーハオ、私の生まれはシャンガンです』です。「ニーハオ」は分かりますね。問題は「ヒョーンゴーン」或いは「シャンガン」です。「ヒョーンゴーン」はカナで表記しいるので分かりにくいのですが、英語の「Hong Kong」の発音に近いようです。日本語で言うと『こんにちは、私の生まれはホンコンです』となります。

この違いは、香港で使われている広東語と標準語とされている「普通話」に近い北京語です。方言と標準語といっても共通語と関西弁というような違いではなく、互いにほとんど会話が通じないと言われています。

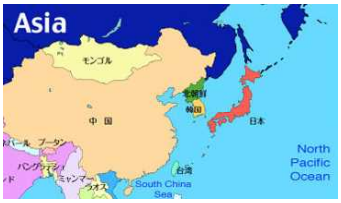
現地読みが良いと分かっていても一筋縄では解決できない事が分かりました。

一方で自分の名前を全く違った読みで呼ばれてもポカンとするだけで、また、旅行で道を日本語読みで尋ねても通じません。

では、漢字でと書いてみても、中国では簡体字を使う事が多く、日本の漢字と異なる場合が多いです。まさに四面楚歌です。

日本のマスメディアでは、韓国・朝鮮人名を「李明博（イ・ミョンバク）」「金正日（キム・ジョンイル）」というように現地読みするのが一般的になってきてます。中国・台湾人名、「胡錦濤（こ・きんとう）」「馬英九（ば・えいきゅう）」というように日本語読みしているのとは大きな差があります。

この差はどうしてでしょうか。ここで確認しておきたいのは、韓国人名を現地音で表記するようになった経緯です。日本の主要メディアの中に現地読みの動きが出始めたのは、韓国の全斗煥大統領が韓国元首として初めて日本を公式訪問した1984年のことです。当時の外相が韓国人や中国人の名前を公式発表文書において現地読みするよう外務省に指示し、一部メディアがこれにならう形で韓国人名の現地読みに踏み切ったからです。背景には韓国政府からの日本政府、メディアへの要望があったからです。



しかし、当時、メディア側は中国人名の現地読みは見送りました。韓国との間では、相互主義（韓国では「田中角栄」を「タナカ・カクエイ」と日本式に読むので、日本側も「全斗煥」を「チョン・ドゥホァン」と韓国式に読む）が大義名分として成り立つのですが、日中間にはそういう関係が存在しません。例えば、日本側は「鄧小平」を「とう・しょうへい」、中国側は「田中角栄」を「ティエンジョン・ジアオロン」と、各々の流儀で読んでいます。中国側から、現地音で読んで欲しいという要請もありません。おそらく、こうした事情を考慮して、各メディアとも「中国人名の現地読みは時期尚早」との判断に至ったと思われます。

韓国はいち早く現地読みを採用し、韓国に指摘されて初めて追随する。中国に対しては相手がしないので、考慮しないなんてなんだか情け無い気がします。

テレビ放送中に間違いがあれば、お詫びと訂正がすぐ入るのに、中国人の人名に対しては本人の名前とは全く違った読みをし、堂々と日本語読みをしているのに訂正も入らないのに違和感を覚えます。

最後に地名に関して一言。人名と同じように日本語読みが多いです。旅をした時、現地読みが分からない場合はたどり着けない事もあるかもしれません。

ここからの話は漢字を使用する国の話ではなく、それ以外の国になります。

国名から「ヴ」が消えた事をご存じですか。ちなみに「ヴ」の表記は福澤諭吉が考案したそうです。

「ヴ」以外にも多くの国名で「ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ」は「バビブベボ」に改められ、「ティ」や「テュ」も「チ」や「チュ」に姿を変えました。これは外務省が決めている世界の国名の話です。

例えば「ヴィエトナム」から「ベトナム」、「ヴェネズエラ」から「ベネズエラ」というように。

イギリスはイングレスというポルトガル語に基づいている事はご存じですか。

世界の国のなかには、国内的に使用されている正式の国名とは別の名前を対外的には通用させている場合もあります。インドは「バーラト」、エジプトは「ミスル」が現地での正式の国名です。フィンランド（スオミ）、ジョージア（サカカルベロ）、ハンガリー（マジャロルサーグ）、など結構多いです。

ベルギーは現地ではベルジーク（フランス語）かベルビエ（オランダ語）であるし、英語ではベルジャンです。アルゼンチンはアルヘンティーナで英語はアルジェンティーナ。英語の形容詞の誤読です。「ベルギー」や「アルゼンチン」は誤読で世界中どこにもそんな呼び方はありません。

今回は固有名詞に関する、結論のない悩ましい話でした。

寄り道・回り道

レポーター：木村（きむら） 謹治（きんじ）

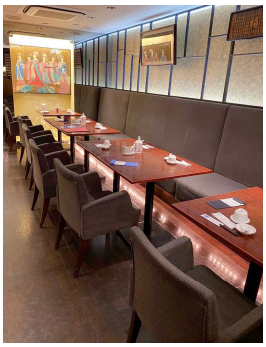
海皇（ハイファン） OSAKA 堂島店

【所在地】　大阪市北区堂島1-4-2　ビールディング北新地3Ｆ
【電話番号】　06-6342-4848
【行き方】　JR北新地駅より徒歩8分
【営業時間】　11時30分～16時／17時～22時30分
【定休日】　不定休
【URL】　https://haiwhan0925.owst.jp/

今回は中国料理です。中国料理と言えば肥後橋に北京料理・徐園がありますが、あえて新地の海皇を選びました。

行き方はとても簡単です。ANAクラウンホテルを目指し、ホテルの北側にあります。余談ですが、すぐ近くに「国産ビール発祥の地碑」が立っています。この当時のビールの香りと飲み心地を味わってみたいものです。

ビールディング北新地ビルをエレベータで3階へ上がり、扉が開くとそこはもう店内です。店の方が温かく迎えてくれました。照明が落とされて、このただならぬ高級感を感じます。



海皇は昭和49年に神戸で創業しました。神戸生まれの日本ではじめてのシーフードだけの中華料理屋として誕生しました。中華料理には刺身などはなかったのですが、伊勢海老の刺身を提供したり、車海老の入ったちょっと創作的な料理で一世風靡した店です。

店には、神戸時代からあった大きなオルゴールがあり、古くからのファンにもうれしい演出です。

席に着くとポットでお茶がサービスされます。ジャスミンティーです。量があるので混んでなければ食後もゆっくり楽しむ事が出来ます。

ジャスミンティーで思い出す事があります。もちろん中国でも何度も飲みましたが、実は沖縄の石垣島に一週間ほど、同じホテルに連泊した事があります。長期滞在ということでサービスがよくて、とても満足でした。沖縄での食事の時に出てくるのはサンピン茶です。大阪ではこの香りを嗅ぐ機会があまりありません。なので、このかぐわしい香りに接すると楽しかった旅の思い出がよみがえってくるのです。

ランチメニュー海鮮あんかけ、チャーハン系として（以下全て税込み）

海鮮あんかけ焼きそば	1,050円
海鮮チャーハン	1,000円
海鮮あんかけご飯	1,050円

（上記は全て、スープ・デザート付き）
以外に単品、コースが用意されています。

迷った挙げ句、海鮮あんかけご飯を選びました。あんかけはホタテ、小エビ、イカ、キクラゲや野菜類が入っており薄味でとても美味しかったです。

溶き卵とエノキ入りで、とろみのある食感の、ほのかな生姜や葱の風味のスープ。

デザートはコクがあるまろやかな杏仁豆腐。表面はプルッとしつつ、なめらかでした。

「オーラルフレイル」にも要注意

サービス部　福田（ふくだ） 直樹（なおき）

・オーラルフレイルとは

前号のアイフレイルは眼の衰えでしたが、口に関する些細な衰えが軽視されないように、口の機能低下、食べる機能の障害、さらには心身の機能低下まで繋がる負の連鎖に警鐘を鳴らした概念をオーラルフレイルといいます。

★機能低下への負の連鎖
噛めない→柔らかいものを食べる
　→噛む機能の低下→噛めない…
という負の連鎖に入ってしまいます。

・オーラルフレイルチェックリスト

ページ下にチェックリストを載せてあります。当てはまる点数の合計はいくつになったでしょうか。４点以上は危険です。

合計が0～2点：オーラルフレイルの危険性は低い
３点：危険性あり
４点：危険性が高い

・オーラルフレイル予防のポイント

１．かかりつけ歯科医をもちましょう
２．口の些細な衰えに気をつけましょう
３．バランスの取れた食事をとりましょう

口の機能を保つためには口の周りの筋肉や舌のトレーニングが効果的です。対面通信2021年２月号の誌上勉強会でトレーニング方法が紹介されていますので、ぜひ参考になさって下さい。

※この記事は以下のＨＰの内容を抜粋、引用いたしました。

・日本歯科医師会
リーフレット「オーラルフレイル」
https://www.jda.or.jp/pdf/oral_flail_leaflet_web.pdf

・対面リーディング通信バックナンバー
http://www.lighthouse.or.jp/iccb/publications/index_publications/index_taimen-reading/

【 オーラルフレイル　セルフチェックリスト 】

質問事項	はい	いいえ
半年前と比べて、堅い物が食べにくくなった	2	
お茶や汁物でむせることがある	2	
義歯を入れている ※	2	
口の渇きが気になる	1	
半年前と比べて、外出が少なくなった	1	
さきイカ、たくあんくらいの堅さの食べ物を噛むことができる		1
1日に2回以上、歯を磨く		1
1年に1回以上、歯医者に行く		1

※歯を失ってしまった場合は義歯等を適切に使って堅いものをしっかり食べることができるよう治療することが大切です。

漢字あれこれ（その7）

対面リーディングボランティア　　澤井 稔

その①　詰まり読み

小さな「っ」で書かれる音を促音(そくおん)と言いますが、ここでは「詰まり読み」と呼んでみます。「詰まり読み」をさわやかに読みましょう。

① 素気ない=「そっけ」ない　冷たくする事。(「すげ」ない)と読む事も有ります。
② 気風のよさ=「きっぷ」のよさ　あっさりとして気前が良い事。ちょっと違った意味になりますが「きふう」と読む場合が有ります。
③ 蓮葉=「はすっぱ」　女性の行動が軽薄で少し下品な事。
④ 生粋=「きっすい」　純粋で混じりけが無い事。
⑤ 初端=「しょっぱな」　いちばん初め。
⑥ 十指に余る=「じっし」にあまる　元は十本の指の名残から、十以上有る事。
⑦ 社内恋愛ご法度=しゃないれんあいご「はっと」　禁令、禁制。禁じられている事。
⑧ 牛車=「ぎっしゃ」　平安時代頃、牛に引かせた貴族の乗り物。単に馬ではなく牛に引かせる車という意味なら「ぎゅうしゃ」でもかまわないと思われます。
⑨ 恰幅のいい人=「かっぷく」のいいひと　ちょうどよい幅で、体つきが堂々としている人。
⑩ 亀甲模様=「きっこう」もよう　亀の甲羅、又それを図案化した六角形の紋様。
⑪ 手甲=「てっこう」　昔、旅人などが手の甲にかぶせた布。
⑫ イタチの最後屁=イタチの「さいごっぺ」　最後の非常手段。イタチは危険な目に遭うと臭い屁をする事が由来。
⑬ 真赤=「まっか」
⑭ 真青=「まっさお」
⑮ 真黒=「まっくろ」
⑯ 真最中=「まっさいちゅう」
⑰ 真只中=「まっただなか」
⑱ 真昼間=「まっぴるま」
⑲ 真逆様=「まっさかさま」
⑳ 真正直=「まっしょうじき」
㉑ 早速=「さっそく」
㉒ 早急=「さっきゅう」
㉓ 見栄張り=「みえっぱり」
㉔ 素頓狂=「すっとんきょう」
㉕ 反歯=「そっぱ」
㉖ 河童=「かっぱ」
㉗ 法被=「はっぴ」
㉘ 入唐=「にっとう」
㉙ 天辺=「てっぺん」
㉚ 甲冑=「かっちゅう」
㉛ 突慳貪=「つっけんどん」
㉜ 七宝焼=「しっぽうやき」
㉝ 真平御免=「まっぴら」ごめん
㉞ 木端微塵=「こっぱみじん」

その②　熟字読み

一字一字の読みに還元出来ない読み方を「熟字読み」と言います。この読みは表意文字を極限に活用したものです。例えば「秋刀魚」は形態と季節感を同時に表して実にうまい表現です。ゆかしさ溢れる熟字読みを自由に我がものにしましょう。

① 職人気質=しょくにん「かたぎ」　職業などから生じる特有の気性。因みにヤクザとカタギの普通の人は「堅気」と書きます。
② 玄人はだし=「くろうと」はだし　玄人がはだしで逃げ出すくらいに、素人(しろうと)が上手い事です。
③ 固唾を飲む=「かたず」をのむ　息を凝らしたりする時に出る唾(つば)のことです。
④ 自棄になる=「やけ」になる　自暴自棄の場合は「じき」ですが、要するにやけくそなので「やけ」と読むのでしょう。
⑤ 狼煙=「のろし」　狼の糞を燃やすと煙がまっすぐに上がると言われたのが由来らしいです。
⑥ 科白=「せりふ」　元は「科」は芝居のしぐさ、「白」はおしゃべりの意味で、本来はしぐさとせりふの事でした。
⑦ 胡坐をかく=「あぐら」をかく　両足を組む座り方です。「胡」は中国西方にいた異民族のことで、中国人はこの座り方を野蛮な風習と考えたようです。
⑧ 月代=「さかやき」　時代劇でおなじみの頭の剃り方です。「つきしろ」とも読んでいたことがあります。
⑨ 香具師=「やし」　祭りや縁日などで物を売る人です。
⑩ 山車=「だし」　祭りの時に引き出す車です。古代の中国で、山野に出現した目出度い車を「山車」(さんしゃ)と言ったのが元だそうです。
⑪ 雑魚=「ざこ」
⑫ 尻尾=「しっぽ」
⑬ 亡骸=「なきがら」
⑭ 独楽=「こま」
⑮ 松明=「たいまつ」
⑯ 灰汁=「あく」
⑰ 抽斗=「ひきだし」
⑱ 火傷=「やけど」
⑲ 案山子=「かかし」
⑳ 熨斗袋=「のしぶくろ」
㉑ 注連縄=「しめなわ」
㉒ 黄泉=「よみ」　死後魂が行く所です。冥途。

漢字で書きながら、漢字の硬さを取る効果があるのが「熟字読み」でしょう。覚えておきたいものです。

・今後の対面リーディングについて

新型コロナのオミクロン株の急速な感染拡大により大阪モデルは再び黄信号となっています（1月20日現在）。今後の状況により対面を休止することもあり得ます。対面リーディング通信は隔月発行で情報が遅くなるため、情文ＨＰのこまめな確認をお願いいたします。

最近カリンバという楽器がお気に入りです。下手ながらポロポロ鳴らしていると癒やされます。不安になりがちな毎日、小さな楽しみを大切にしたいものですね。(F)

日本ライトハウス 情報文化センター
550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2
06-6136-7704（対面専用）
06-6441-0039（サービス部）